

平成30年度 土浦日本大学中等教育学校自己評価票

本校の目指す学校像	<p>土浦日本大学学園建学の精神に基づき自主自立の気風を養い、中等普通教育及び高等普通教育並びに専門教育を一貫して教育することによって世界の平和と人類の福祉に寄与しうる人材の育成をはかり、社会に貢献することを目的とする。目的実現のため次の目標を掲げるものとする。</p> <p>(1) 豊かな語学力を習得し、世界の人々と対話のできる日本人を目指します (2) 自分たちを育てた文化や社会を理解し日本の素晴らしさを世界に発信します (3) 複雑化した現代社会を生き抜くために、教養を磨きさらに得意分野を生かした高度な専門知識を身につけます (4) 読書、絵画、音楽等を通じて芸術や文化を愛し理解する心を磨き、みずみずしい感性を養います (5) さまざまな危機に直面する地球環境をつねに心の片隅において行動のできる人、地球にやさしい人を目指します</p>
-----------	---

本校の特长及び課題	<p>平成30年度学校教育方針『他者を敬う優しい心を有し、自ら考え、自ら行動し、国際社会で活躍できる人材の育成を目指しつつ、学園からいじめを根絶する』ために以下の3点を基本方針に据える。</p> <p>1. 夢を実現する確かな『学力』の育成 2. 世界に向かって発信できる『国際力の育成』 3. それぞれの分野で、リーダーとして、たくましく活動でき、他者を思いやる優しい心のある『人間力』の育成</p> <p>これらの方針を実現するための実践項目として、次の4点を挙げる。</p> <p>①基本的な生活習慣を全学年、全クラスで確立 ②他者を敬う優しい心を育む指導の推進（『いじめ』の撲滅） ③「学習活動」を軸にした進路指導を強力に展開 ④日常の教育活動が生徒募集に直結することを念頭に取り組む</p> <p>また、昨年度引き続き日本大学45%前後の進学者とともに、国公立大学15%以上、難関私立大学25%以上、海外進学者10%前後を目指すため、課外を実施していく。</p>
-----------	---

平成30年度の実績結果

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
教育活動 (教務)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画の立案と調整 ・時間割管理 	<p>年間行事については、新天然皇即位に関わるGW前後の動きで公的機関の日程も変更されるが、高等学校と協力の下、円滑に行うことができた。昨年度課題となっていた入試の運用については、英語運用力入試をはじめ適正化を随時図った。</p> <p>時間割課外授業などの運営においても、学習指導部と一体とな</p>	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・各種帳簿管理 ・テストの運用 ・課外の計画運用 ・教員研修の計画実施 ・学校評価の実施 ・学校日誌の作成 	<p>り適切な運営を行うことが出来た。</p> <p>転入・転出の処理も含め学年と協力し正確に処理した。</p> <p>例年通り，安定した運用ができた。</p> <p>課外については，対象学年及び講座数を精選した。</p> <p>また長期休暇期間の宿題をやろう課外は盛況であった。</p> <p>教員研修のあり方を検討し，新学力観に応じた対応を検討しているが，常態化するまでは至っていない。</p> <p>今年度から年2回の学校評価の実施に変え業務の円滑化を図った。。</p> <p>臨時休校，学級閉鎖等，予定外の事態にも対応できた。</p>	
<p>学校生活への配慮（生徒指導）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の作成と実践 ・日常生活の指導 ・清掃分担の計画運用 ・いじめ対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を作成し，全体への周知についても週報を活用し徹底することができた。 学年団の協力の下，登下校の指導を含め安全に配慮することができた。制服の着こなしについては，後期課程で問題が散見されており，今後も対策を続けていく。 清掃分担において，長期の行事，6学年の自主登校期間なども混乱無く実施できた。 生活実態調査を生徒，保護者にも実施し，その都度，会議を招集することで共有をはかり，いじめの芽の段階から対応することができたが，個別対応の面では学年ごとに課題も散見された。 	B

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
<p>生徒会・部活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動全般の指導 ・オープンハウスの計画と実施 ・スポーツデイの計画と実施 ・部活動の管理と運営 ・スポーツ大会の計画と実施 ・ボランティア活動の計画と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の運用については，生徒たちが主体となり留学生送別会を含め，主体的に活動することができた。 また，選挙活動については，年々素晴らしい形になっている。 ・OpenHouse では，各コンテストの決勝など対外的にも本校の教育活動をアピールすることができ，同時に前夜祭・後夜祭で生徒が中心となる活動も活性化した。。 ・SportsDay では，右靱桜グラウンドでの実施が円滑に行えるようになり，保護者会の協力があったものの送迎でトラブルがあった。 ・部活動では，個人競技ではあったが陸上部の生徒が県代表として京都駅伝に参加するなど活性化した。文化部でも鉄道研究会をはじめ活性化してきている。 ・スポーツ大会も年1回となってからは，球技大会的要素がはっきりとしてきたが，アルティメットをはじめ全クラスで応援する姿勢がみられた。 ・ボランティア活動では，継続的に行われる内容の計画，管理，運営が望まれるが，現時点では実施まで困難が伴っている。 	A

進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する各種調査の実施 ・進路講演会の実施計画 ・高大連携の促進活動 ・進路情報の収集分析と公開 ・3つの進路実現のための諸活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の情報処理室と連携し、受験大学及び方式を一元管理し、出願関係資料の作成可否データ処理を行っている ・進路講演会では、学年と協力することで、生徒対象や保護者対象で学年の希望に応じ、月1～2回程度実施している。 ・CPCを7時半から開室し、毎朝生徒が自学自習を行う環境を作っている。 ・スタディサプリを導入しICTを活用した指導を展開したが、学年や教科により活用に差が出ている。 ・現時点で、国立大学の後期日程の結果は出ていないが、わずか73名にも関わらず、日本大学の合格率をはじめ、国公立、難関私大の合格では予想を超える結果となった。 	A
------	---	---	---

保健・衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な健康診断の実施 ・健康管理への配慮 ・教育相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康診断については、前年度の後半から学校の先生方と連絡を密にして計画し学校行事として組み込み実施にいたっている。 ・健康診断を通じて健康寿命を延ばす活動を進めている。 ・カウンセラーの利用は限られた時間の中でも連携が取れている。今後も利用していない生徒にも利用してもらえるよう周知していきたい。 	B
図書	<ul style="list-style-type: none"> ・読書案内の充実 ・図書館活用率の向上 ・図書委員活動の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会では、各学年で取り組んでいるブックレビューカードのデータ化が進んでいる。 ・新書など読書の推進を行っていくため、道徳や総合的な学習で詳解を行っていった。また4学年では月に1回の本の紹介を行い読書習慣がつくよう努力している。 ・相変わらず、受験参考書を中心に、不明図書の増加が問題となっている。 	B
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・927名の受験者と147名の入学者確保 ・学校説明会の実施 ・多岐に渡る学習履歴の生徒の選別 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺私立の生徒数減少に対して147名を確保した。県南の私立の中では、江戸取、茗溪、土浦中等の3校が中心となる形ができた。 ・オープンスクールをはじめとした教員と本校生徒、そして受験生が触れ合える体験参加型の広報が功を奏した。 ・茨城型SAT,千葉型SATに続き新学力型入試、英語運用力入試で受験生が増えた。一般入試で県外を含め、評判が広がり入学者増につながった。 ・引き続き水戸地区の入学者減が目立った。 	A

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針の浸透 ・校務分掌機能の円滑化 ・教員管理 ・企画管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針に従い、各分掌に指示を出すことが来た。 ・両教頭が担当する分掌をまとめ、各分掌に対して問題解決に関わる指導助言を与えた。 ・教員の業務を評価分析し、次年度の教育活動に生かせるよう指導助言を与えた。 ・行事に関わる折衝、対外的な対応を含め、予算、人的資源の配置などを行った。 	A

庶務	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、環境美化の推進 ・保護者と教師の会の充実 ・同窓会組織の運営 ・各儀式の運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室内の会議室、学習スペース、給湯室を中心に美化に努めた。教員の机上については年度末に近づくに従い、整理できていない状況が目立つ。 ・保護者と教師の会では、地区会に教員を参加させることで、直接的な言葉だけでなく多くの情報を共有できた。 ・同窓会の活性化が次の課題として目立ってきた。 ・入学式、卒業式に対して入念な準備と折衝、及び予行を通じて厳かな中にも本校らしい儀式の運営に成功した。 	A
学年	<ul style="list-style-type: none"> ・前期課程の取り組み ・後期課程 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面で、二極化が生じていく時期であり、同時に生徒指導上の問題も出てくるため、対応に苦慮した。保護者の方々との協力をより一層強固にする必要が見られた。 ・行事などでリーダーシップを取る生徒は増加している。 ・学力面で問題を持った生徒に対して、課外の参加などを促してきたが、5年生を中心に課外出席率が向上してきている。抜き出し課外や StudySupli などを活用し、4学年では模試の度に成績の向上が見られた。 	A

達成状況評価基準	A	取組目標が十分達成された	「よくできている」「できている」割合が90%以上
	B	概ね達成された	「よくできている」「できている」割合が80%以上
	C	課題を多く残している	「よくできている」「できている」割合が70%以上
	D	成果が出ていない	「よくできている」「できている」割合が70%未満